

民医連厚生事業協

共済だより

2023年
9月
第185号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター6F
TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652
E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp
(共済だより用)
kyousai@min-iren.gr.jp
(厚生事業協宛)

ホームページ:<https://min-jigyoo.or.jp>



いわさきちひろ「お姉さんとあかちゃん」(1971年) (14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしています)

主な記事

- **みんな違っていい③** / 元世田谷区立桜丘中学校校長 西郷 孝彦さん
- **いま、なぜ憲法改悪なのか パートⅡ⑪⑥** 若手弁護士の会
- **縮図からみる世界⑥④** 米国の思うがままにされてしまう / 斎藤 貴男
- **各地の共済企画** 久しぶりのお泊まり企画は「みんなでソロキャンプ」 / 神奈川県民医連共済連絡会
- **私の趣味・こだわり紹介④⑧** ジャグると楽しいよ / 京都・tak^{ペンネーム}
④⑨ すのぼ / 北海道・スノボ好き^{ペンネーム}

女スポはじまる!!

2023年度
スポーツ文化企画
のお知らせ

<https://www.min-jigyoo.or.jp>

※QRコードは上部にあります。

オススメ!!

ちひろ美術館 (東京・安曇野) に2023年10~11月に来館時、「共済だより」をご提示いただくと、入館料を200円割引いたします。

原爆投下から78年、今年もさまざまな思いをめぐらせながら広島市平和記念公園での平和記念式典をテレビで見守りました。広島市の松井市長の平和宣言、広島県の湯崎知事がG7サミットで発表された「広島ビジョン」についてどう言及するのか注目しました。「核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立つべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示され」（広島ビジョン）。要するに「核抑止論」です。これについて市長はこう述べました。

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取り組みを早急に始める必要があるのではないのでしょうか。市民社会においては、一人一人が、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」というメッセージに込められた人類愛や寛容の精神を共有するとともに、個人の尊厳や安全が損なわれない平和な世界の実現に向け、為政者に核抑止論から脱却を促すことができます。ますます重要になっています。

次いで、湯崎知事はあいさつの中でこ

シリーズ

いま、なぜ憲法改悪なのか **パートII**

①① 平和記念式典で相次いだ核抑止論への批判 ～核廃絶は唯一の道～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>

黒澤いつき



う述べました。

なお世界には、核兵器こそが平和の維持に不可欠であるという、積極的核抑止論の信奉者が存在し、首脳たちの示す目標に向けた意志にかかわらず、核軍縮の歩みを遅らせています。私は、そのような核抑止論者に問いたい。あなたは、今の瞬間も命を落としている無辜のウクライナの市民に対し、責任を負えるのですか。ウクライナが核兵器を放棄したから侵略を受けているわけではありません。ロシアが核兵器を持っているから侵略を止められないのです。核兵器国による非核兵器国への侵略を止められないという現在の状況は、「安定・不安定パラドックス」として、核抑止論から予想されてきたことではないですか。

慰霊碑に刻まれた「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」の字。固く誓われたはずの約束を守り続けることが、なぜこんなにも困難なのか、やりきれなさが溢れます。

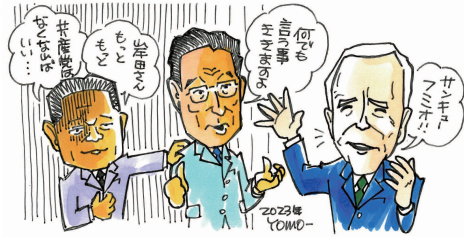
岸田首相の面前で核抑止論への明確な批判がなされたことは、とても重要です。「抑止」とは、要するに「攻撃されたら倍返しで報復するぞ」という脅し合いです。互いに兵器をちらつかせて脅し合い、軍事的緊張をはりつめさせる、それを「抑止で平和を保つ」と表現するのが適切なのだろうか、と問いたくなります。また、相手国が理性的に行動しなければ「抑止」は失敗します。勝算がないにもかかわらず、自ら太平洋戦争の火ぶたを切ったのは日本です。アメリカの「抑止」が効かなかったいい例です。ロシアが侵略戦争に踏み切った上に核兵器で世界を脅しているのもまた、NATOの「抑止」の失敗ではないでしょうか。抑止論は、とても不安定で不確実なもので、依拠はあまりにも危険だ、と現実から学ぶべきです。

それでも、一人の人間として、一人の親として、諦めるわけにはいきません。非戦を誓う憲法9条や核廃絶を、「理想論にすぎない」と嘲笑する声を取り囲んでいきますが、理想論どころか、それがもつとも合理的で現実的な道だという確信を胸に、「不断の努力」を続けようと改めて決意した6日でした。

憲法9条の非戦の誓いを、いともかたんに無視して軍拡を進める政治は、立憲主義を標榜する近代国家そのものを壊す政治であり、それへの恐怖と怒りもまたあらためてこみ上げます。

縮図からみる世界【64】

齋藤 貴男



米国の思うがままにされてしまう

「この男がウクライナのために立ち上がると思った人は、欧米にはほとんどいなかった」

米国のバイデン大統領はそう述べて、傍の岸田文雄首相に握手を求めたそうである。さる7月12日、先進7カ国（G7）の首脳がウクライナ支援の共同宣言を発表した北欧リトアニアの首都・ビリニウス。

バイデン氏はまた、日本の防衛費増額にも言及した。「改めて公の場で感謝したい」とも語るなど、岸田氏への称賛を重ねたという（共同通信7月13日配信記事など）。

1月の日米首脳会談を思い出す。いわゆる「安保3文書」の閣議決定を報告し、日米軍事同盟の強化を約束した岸田氏は、少なくともテレビで放送された映像では、圧倒的な暴力の前にひたすら媚び諂う表情をしていた。

悲しくてやりきれない。バイデン氏の賛辞は、キシダの手柄に惚れた！ という話ではあり得ない。米国の代理戦争に日本を参戦させた、今後も軍拡で同一歩調を取ってくれそうだと、彼らにとって実に便利な存在だという以上でも、以下でもないのではあるまいか。

先のG7サミットも酷かった。首脳らがわざわざ広島に参集し、原爆資料館まで見学してお

きながら、その上で発表された核軍縮に関する共同声明「広島ビジョン」は、ロシアや中国をなじる一方で、米国を中心とする自陣営は絶対的な正義でもあるがごとく主張。その核戦略についても、正当化の限りを尽くしていた。被爆地から選出された、しかもホスト国のトップである岸田氏は、いくら何でも、もう少しはどうにかできなかったのだろうか。

いや、できなかったからこそ、彼はバイデン氏にベタ褒めされたのである。孫子の代に至るまでの地位も安泰なのかもしれない。生き方は人それぞれだとはいうものの、岸田氏が単なる一個人ではないことぐらいは確認しておきたい。

このままでは、私たちの国は——いや、国家などどうでもよいと考えている私ではあるものの、私たちの社会が米国の思うがままにされてしまうのは嫌だ。いちいち列挙することはしたくもないが、軍事のみならず、文化さらには日常生活の隅々までもが、岸田政権の下で、米国の売り飛ばされつつある現実を見よ。

野党もまったく歯止めになっていない。否、分野によっては、むしろ政権をも上回る勢いで売国を加速させていると感じさせられてしまっているのは、ひとり私だけだろうか。

齋藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国パーミンガム大学大学院修了。主な著書に『機会不平等』『戦争経済大国』『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』『マイナンバーが日本を壊す』『マスゴミって言うな!』など。

